

平成23年度 安佐中学校研究推進計画

1 研究主題

自ら学びを追求する生徒の育成（4年次）

—相手を意識した表現力の向上を通して—

2 「学び」の本校の捉え方

対象について主体的にかかわり、仲間とのかかわり合いを通して、自らよりよい方向に変容していくこと

3 仮説

相手を意識した表現力の向上に重点を置いて、習得型学力の定着を基盤にした活用・探究型の授業づくりを工夫すれば、自ら学びを追求する生徒を育成することができるであろう。

4 主題設定の理由

(1) 「相手を意識した表現力の向上」を目指した授業の工夫・改善について

自ら学びを追求する生徒を育成するために、平成20年度から「相手を意識した表現力の向上」に重点を置いて、習得型学力の定着を基盤にした活用・探究型の授業づくりに取り組んできた。自分の考えを表現することを通して身につけさせたいことは、相手を意識し、相手の考えを受け止めながら自分の考えを相手と共有し、相手の考えから自己を見つめなおすことである。

3年次までの研修では、生徒が自分の考えをもち、問題解決をしていく授業や、小グループの活動を取り入れ生徒同士が学び合う授業づくりを意識して取り組んできた。成果としては、「目標の明確化」、「表現する場の設定」により必然性を持たせた学習活動が組み立てられるようになったことや、新聞や映像を取り入れるなどの「教材・教具の工夫」により学習を深める技術の積み上げができたことが挙げられる。生徒が自分の考えを広げたり深めたりするために、生徒同士のかかわりを通して様々な意見に触れることによってより充実することが、実感をもって理解できた。

今後は引き続きかかわり合いを通して「学び」を深める授業研究を行いながら、「相手を意識した表現力」の評価の基準・規準を明確にし、具体的な生徒の姿を通して授業評価を行うことで、授業の工夫・改善を図りたい。

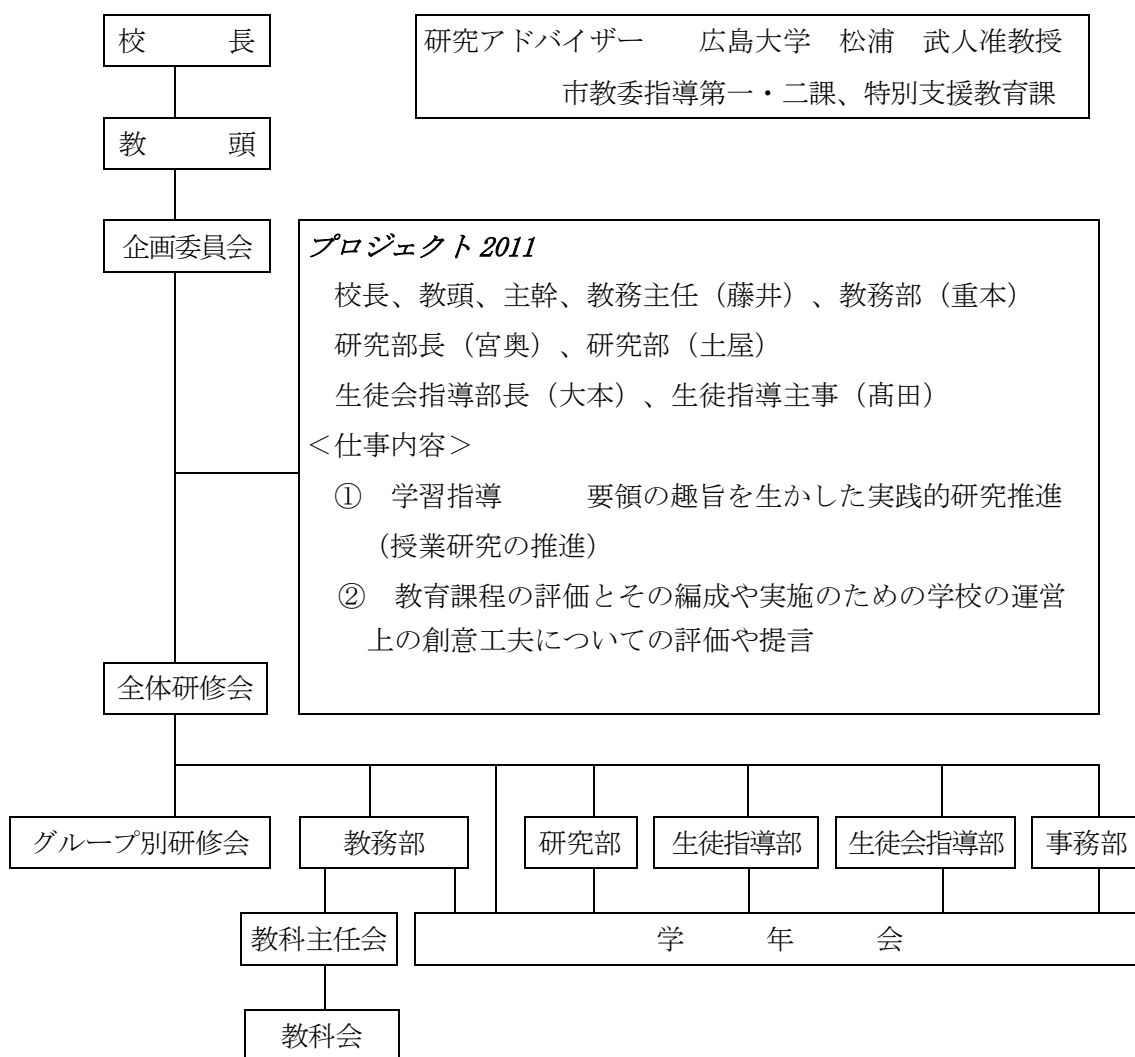
(2) 生徒の意識調査の結果から

平成22年度の「生徒の意識調査」では、学習意欲に関して、「教科学習に意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒は91%となっている。しかし、「もっと学んでみたいことがある」という回答は52%にとどまっている。理由に「今勉強していること

で手一杯で次のことまで考えられない」、「それまでに学習したことで満足している」などと挙げていることなどから、与えられた課題に対する生徒の意識は高いが、受け身になっており、自ら学びを追求しようとしていないことがわかる。

したがって、自ら学びを追求する生徒の育成を図るためには、「わかる」・「できる」という体験を重ね、さらに他者から認められることで意欲を喚起することが必要だと考える。そこで、生徒が「わかった」と思ったことを、実際に表現させてみて「できる」と思わせることと、「できたこと」を評価するという活動を通して、「もっと学んでみたい」という意欲を喚起したい。

5 研究推進体制



6 年間活動スケジュール

月	研究推進関係
4	<p>15 ●授業研修会〔研究推進計画（実践内容について）〕</p> <p>28 ●全体研修会〔研究推進計画〕</p> <p>★グループ別研修会 〔グループ別研修計画の検討、校内・公開授業研授業者決定など〕</p>
5	<p>13 生徒・教員意識調査</p> <p>24 学習指導略案原稿一次締め切り</p> <p>25 3年学年会〔道徳学習指導略案の検討〕</p> <p>27 教科会〔学習指導略案検討〕</p> <p>30 ◆プロジェクト会議 〔研究会打合せ、資料、学習指導略案検討、<u>学習指導略案提出・20部</u>〕 ⇒授業者は指導助言者と連絡（6/6までに）</p>
6	<p>8 研究会資料原稿すべて〆、印刷、準備作業等</p> <p>9 印刷・製本、準備作業等</p> <p>15 校内授業研究会<全9グループ>（指導第一・二課、特別支援教育課） ★グループ別研修会〔研修の取り組み状況とその検証〕</p>
7	<p>生徒・教員意識調査</p> <p>1・2年学年会〔道徳学習指導略案の検討〕</p>
8	<p>1 ●全体研修会（松浦 武人准教授）〔研修の取り組み状況の報告とその集約〕</p> <p>★グループ別研修会〔グループ別研修計画の確認など〕</p> <p>◆プロジェクト会議〔公開研進行計画確認〕 要項配布</p> <p>25 ◆公開授業研究会打合会〔今後の流れの確認〕</p>
9	<p>5 公開授業担当内容等決定〆</p> <p>26 生徒・教員意識調査</p> <p>◆プロジェクト会議 〔研究会打合せ、資料、学習指導略案検討、<u>学習指導略案提出・20部</u>〕</p> <p>27 ◆授業者打合会〔授業者＋プロジェクト〕〔学習指導略案検討〕 ⇒授業者は指導助言者と連絡（10/19までに）</p>
10	<p>4 案内配布、要項詳細配布</p> <p>21 研究会資料原稿すべて〆、印刷、準備作業等（10/27までに印刷完了）</p>
11	<p>7 準備作業等…各教室、協議会会場整備</p> <p>8 公開授業研究会<全9グループ> （松浦 武人准教授、指導第一・二課、特別支援教育課）</p>
12	<p>2 生徒・教員意識調査</p> <p>7 ●全体研修会「年間まとめ」</p>
1	<p>16 ●全体研修会「24年度構想」</p>

7 研究実践内容

(1) 教員の研修システム（安佐中スタイル）

- ① 教員5人程度の小グループによる研修により、授業公開や研究協議を活性化する。
- ② グループは、同学年の5人（講師含む）程度（各学年3グループ）で構成し、メンバーは1年間固定する。
- ③ 1人の授業公開をグループで参観して、協議する。
（授業公開は年間で1人2回以上実施し、教職員にオープンにする）
- ④ 「教科を見る」視点から「生徒の活動を見る」視点へ
- ⑤ 研究授業を参観するときの視点の統一や研究協議の充実を目指した研修を実施する。
- ⑥ 指導略案と協議会記録を残し、全体会での報告に使用する。
- ⑦ 協議は原則としてその日の休憩時間、放課後等にする。
- ⑧ 事前に時間割係に伝えるか、グループで調整して参観できるようにする。
（やむをえない場合は、授業の一部のみやビデオ参観可）
- ⑨ 全体研修会で、各グループの研究協議の報告を行う。
- ⑩ 教員の意識統一、情報の共有、研修の検証のため、全体または学年ごとの研究授業と協議を行う。

(2) 相手を意識した表現力を向上させる授業の工夫・改善

- ① 有効なコミュニケーションをさせるために、「自分の考えを持つ」活動を入れる。
 - ② 一人ひとりの学びをつくるために、小グループの活動等を活用する。また、多様な意見を出し合うことや学び合いなどの生徒同士のかかわり合いを活発化させる。
 - ③ 学びの質を高めるために、自分の考えを表現し仲間と共有させる。
 - ④ 活用・探究型の授業づくりとのバランスをとりながら、その基盤となる授業規律の確立や習得型学力の定着を図る。
 - ⑤ 「聴く」「つなぐ」「もどす」を意識して生徒への支援を行う。
 - ⑥ 生徒の「わかる」が「できる」につながる表現活動を取り入れ、指導と評価の一体化を図る。
- これらを学校教育目標の具現化（特別支援教育の推進、予防的生徒指導の実践なども含む）ととらえる。

8 研究の検証・評価

- (1) 松浦武人准教授、広島市教育委員会指導第一・二課、特別支援教育課との研究協議
- (2) 全体研修会、グループ別研修会での研究協議
- (3) 教科会での授業評価表を用いた研究協議
- (4) アンケートによる生徒、教員の意識調査
- (5) 学力の測定（定期テスト等）